

## おおいぬ座

冬の冷たく澄んだ夜空の中、全天で最も明るい恒星「シリウス」が青白くキラキラと輝く姿は、一度見たら忘れられない美しさです。明るい星が多い冬の夜空ですが、シリウスはマイナス1.5等星の明るさで、その名前もギリシャ語の「セイリオス」、「焼き焦がすもの」という言葉から来ています。では、シリウスが輝く「おおいぬ座」の物語をご紹介します。

おおいぬ座は、古代ギリシャの天文学者プトレマイオスが設定した48星座の一つです。この犬のモデルには諸説ありますが、そ

のうちの一つに「名犬レラプス」のエピソードがあります。

レラプスは「獲物を決して逃さない」という不思議な力を持っていました。ある時、彼は「決して捕まることがない」という運命を持ついたずらキツネを追いかけることになりました。「必ず捕まえる犬」と「絶対に捕まらないキツネ」。この矛盾した二匹の追いかっけこは、いつまでたっても決着が付きませんでした。

この様子を空から見ていた大神ゼウスは、「このままでは世界の法則が崩れる」と心配をし、ゼウスは二匹を石に変え、レラプスを星空に上げました。それが今の「おおいぬ座」の姿だと言われています。

冬の夜空でひときわ力強く輝くその姿は、今でも獲物を追い続けている情熱の表れかもしれません。そんな太古の追いかっけこに想いを馳せながら、シリウスの輝きを探してみてください。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）、5文字で星座と神話（すとうけんたろう著 / 講談社）

今月の見どころ星どころ

## カノープス

りゅうこつ座という星座の中に「カノープス」という星があります。全天でシリウスに次いで2番目に明るい恒星で、マイナス0.7等星の明るさです。とても明るい星ですが、北半球の中緯度地域では南の地平線すれすれにしか現れないため、見つけるのが非常に難しい「縁起の良い星」として知られています。

2月は、この星を狙う絶好のシーズンです。2月中旬であれば、真南の空をじっくりと見つめてみてください。冬の大三角の頂点にあるシリウスから、真っ直ぐ地面に向かって垂直に視線を下ろした先、地平線のすぐそばにぼつんと光る星が「カノープス」です。

古くから中国では「南極老人星」と呼ばれ、一度見れば健康で長寿にあやかれるという言い伝えがあります。

南の空が開けた場所を見つけたら、冬の澄んだ空気の中でこの「縁起の良い星」を探す静かなひとときを過ごしてみませんか。水平線の向こう側に輝くその姿に出会えたなら、きっと特別な冬の思い出になるはずです。

参考図書

全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）



文・浜松市天文台  
村松 大河



## 星空クイズ

ふたご座にまつわるギリシャ神話では、この双子はレダとゼウスの間にできた兄弟とされています。この二人の名前の組み合わせで正しいのはどれでしょう。

- A カストルとボルックス
- B ベテルギウスとリゲル
- C ミザールとアルコル

答えは中面へ

# 星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2026年2月

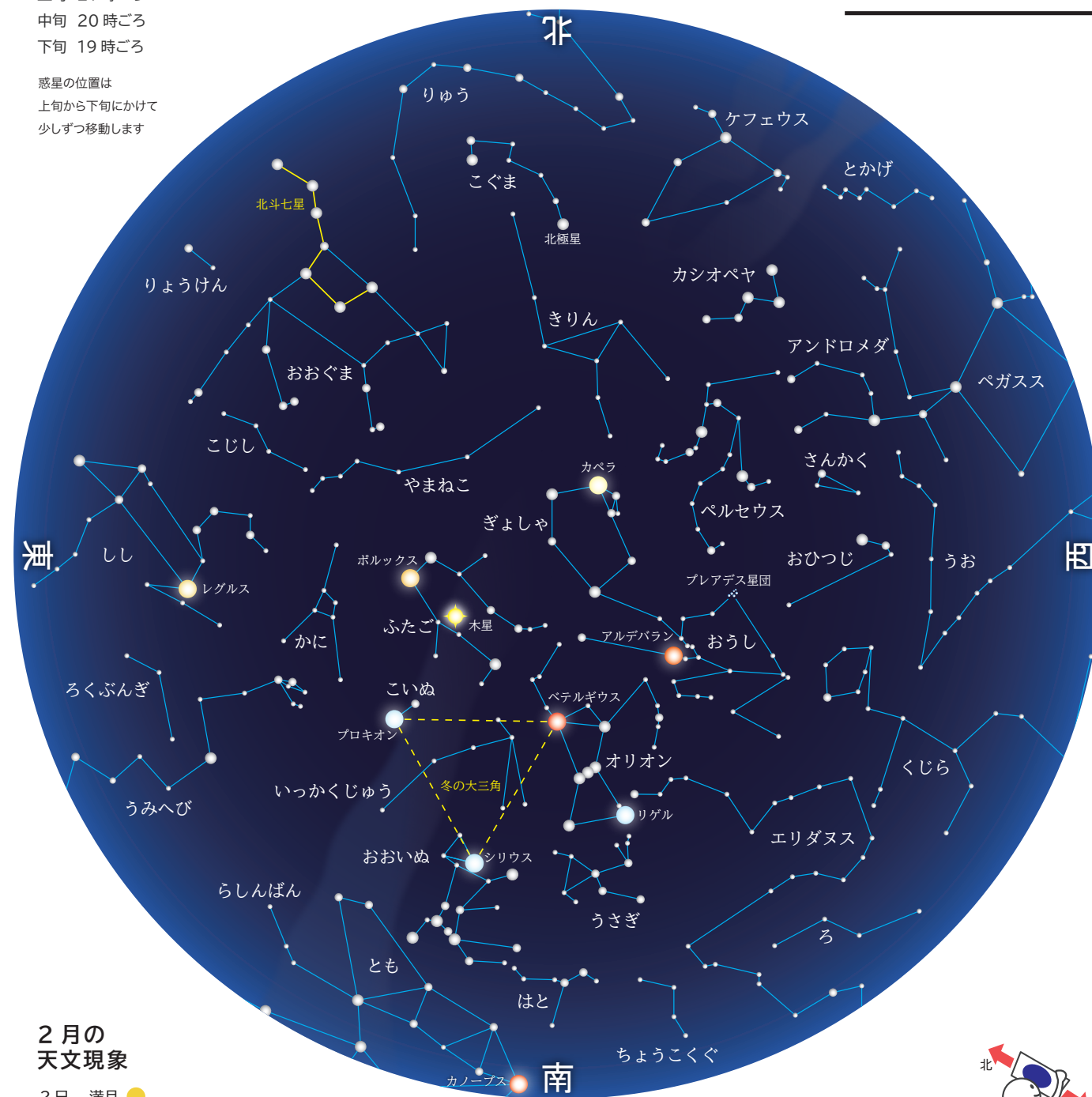
上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は

上旬から下旬にかけて  
少しずつ移動します



## 2月の天文現象

- 2日 満月 ●
- 4日 【立春】太陽黄経 315°
- 9日 下弦 ●
- 17日 新月 ●
- 19日 【雨水】太陽黄経 330°
- 24日 上弦 ●

上の星図は、空にかざして  
実際の方角と合わせてご覧ください。



2月4日は太陽が黄経315°に達し、立春を迎えます。この日から春となるのですが、大雪が降る地域もあるように、まだまだ寒さが厳しい季節です。そんな今の時期、夜になると子午線にはオリオン座、それを取り囲むように、おおいぬ座、こいぬ座など、冬の星座が天頂付近に集まっています。重ね着をしっかりと、冬の美しい星座を楽しみましょう。







## 浜松市天文台

### イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。



ウェブサイトはこちら



## 2/7・21・28 星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

土



季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごと先着20組)



## 2/1 太陽・昼間の星観望会

日

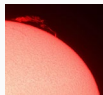


黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00

会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



## 2/15 双眼鏡講座

日



双眼鏡の構造や使い方を知る講座です。手軽に天体観望を始めませんか。

時間 18:00～19:00

会場 2F 講座室／天文台屋上

申し込み 2/4 (水) 13時から受付 (先着10組)



## 2/28 めざせ!望遠鏡マスター

土



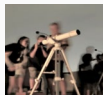
望遠鏡を使って天体を見てみよう! 小中学生対象の簡単な取り扱い説明と実習を行います。

時間 17:30～18:30

対象 小中学生

会場 2F 講座室／天文台屋上

申し込み 2/25 (水) 13時から受付 (先着6人)



## 2/8 ソムリエ観望会 (惑星・冬)

日



星空案内のガイドツアー付き観望会です。星のソムリエ\*がご案内します。

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 1/28 (水) 13時から受付 (1時間ごと先着9組)



## 2/20 親子天文教室

金



小学生親子向けの天文教室です。お話と観望がセットになっています。

時間 18:30～20:00

会場 2F 講座室／天文台屋上

申し込み 2/11 (水) 13時から受付 (先着20組)



## 3/3 皆既月食観望会

火



皆既月食は地球の影に月が隠される現象です。みなさんと赤銅色に染まる月を見ましょう。

時間 18:30～22:30

会場 天文台屋上

申し込み 2/18 (水) 13時から受付 (先着20組)



裏面のクイズの答え：正解は、A (Bはオリオン座の星、Cはおおぐま座の星)

## 第44回 ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展

### 作品展示のご案内

第44回ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展には、たくさんの応募がありました。優秀賞と入選の作品を展示しています。子供たちの豊かな思いが表現された力作ばかりです。ぜひご覧ください。

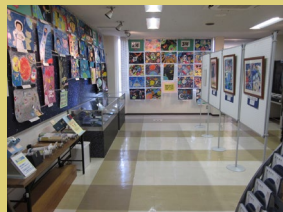
展示期間

2026年  
2月13日(金)～3月8日(日)

### 会場

浜松市天文台ホール  
(五島協働センター3F)

※詳細は浜松市天文台ウェブサイトをご覧ください



## 浜松科学館

### プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



#### プラネタリウム



#### 天竜浜名湖鉄道 星空紀行

天浜線の車窓や沿線の星空を見に行きませんか？

平日 14:30～15:25  
(土日祝は13:00～13:55も放映)



#### 星空マルシェ

気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。

平日 15:50～16:30

#### 大型映像



#### ティラノサウルス

土日祝 10:30～11:10



#### ヒーリングアース IN JAPAN

土日祝 15:50～16:30

#### キッズプラネタリウム



#### きらきら☆こんやのおほしさま

土日祝 11:30～12:05

#### 夜の科学館 特別放映



#### プラネタリアンへの道 星語りの流儀

2月14日(土) 18:00～18:40  
19:00～19:40

## イタリアの天文学史 ～オリンピック開催にちなんで～

column

文・浜松科学館 天文チーム 伊藤将宏

今年2月にイタリアで冬季オリンピックが行われます。イタリア北部の都市ミラノとミラノから東へ約300km離れた山あいの町コルティナが会場です。みなさんは現地に行きますか？観光スポットの一つに“星空がきれいな場所”があります。コルティナはドロミテ山脈(アルプス山脈の分脈)にあり、世界遺産に登録されています。夏はハイキング、冬はスキーが楽しめる山岳リゾートです。もちろん夜は星がきれいに見えます。標高約1,800メートルのコル・ドルシエにはヘルムート・ウルリッヒ天文台があり、望遠鏡で星を見ることができますよ。

さて、昨年の万博や今年のオリンピックで何かと話題の国「イタリア」ですが、同国の“天文学の歴史”という観点で3つの話題をご紹介します。

### その1. 天文学の父「ガリレオ・ガリレイ」は望遠鏡で星の世界を覗き込んだ

誰もが一度は名前を聞いたことがあるガリレオはピサ出身の科学者です。ピサの斜塔での物体の落下実験を行ったり、望遠鏡を使って、月や太陽、木星を観察したりしました。中でも木星の衛星の公転は地動説を確かなものにする発見でした。当時、神が住む世界とされていた星や空に望遠鏡を向けたことは、天文学の歴史の中で革命的な出来事なのです。

### その2. 幽霊粒子「ニュートリノ」は物理学者「エリンコ・フェルミ」が名付けた

ローマ出身のフェルミはすでに別の研究者が提唱していた、電気を帯びていない粒子についてさらに研究しました。電氣的にプラスでもマイナスでもない“中性”を意味する「ニュートラル」、そこにイタリア語の“小さい”を意味する「イノ」をつけて、その粒子を「ニュートリノ」と名付けました。電氣的に中性で、重さもほとんどないため「幽霊粒子」という愛称があります。ニュートリノは、そもそもなぜ物質があるのか？宇宙はなぜあるのか？という問いを解決する手がかりだと言われています。

### その3. 至宝「ファルネーゼのアトラス」は宇宙のロマンを纏った美術品

「ファルネーゼ」はイタリアの貴族の名前です。ファルネーゼ家が集めたコレクションの一つで、現在はナポリ国立考古学博物館が所蔵しています。「アトラス」はギリシャ神話に登場する巨神の名前です。高さ約2メートルもある大理石の彫刻で、2世紀に作られたとされています。アトラスが担ぐ天球には48の星座や目盛り線(天の赤道、黄道など)が描かれています。およそ2,000年も前にはすでに人々は星を標(しるべ)に空の地図を描いていたのです。

天文学の歴史から見ても、様々な話題を掘り出すことができます。イタリアの魅力は計り知れませんね。

